

第2回 平館高校 学校評議員会 議事録

- 1 日 時 令和3年2月24日(水) 10:20~11:50
- 2 場 所 平館高校 会議室
- 3 出席者 評議員4名(欠席1名) 職員11名
- 4 説 明 学校概況説明・・・校長、副校長、家政科学科長から
- 5 評議員から
(1) 平館高校について

A 氏

- 家政科学科の活躍が素晴らしい。地域との連携、協力関係の例を教えてください。

【家政科学科長】

「ポパイの家」の協力を得ながら、エコバッグを製作した。さらに、手芸サークルの協力もあって、生徒は仕上げにベルトの取り付けを担当した。地域の専門家とも協力しながら、紫根染や地熱染製品の開発も行っている。「そよ風の家」には、溶岩パンを作ってもらった。

- 平館高校全体の取組がよいのだと思う。取組がよいので、地域の方々の協力を得ることができた。福祉機関とのつながりは大切で、出向くのはとてもよい。

B 氏

- 平高の志願者について調べてみた。平成31年度入試は普通科0.79倍、家政科学科0.26倍。令和2年度は普通科0.76倍、家政科学科0.58倍。令和3年度は普通科0.89倍、家政科学科0.3倍。普通科の倍率が高くなっている。中学校に出向いての説明会が功を奏しているし、広報はちまんたいの『平高通信』が効果的である。ただし、新聞紙上に何度も取り上げられていて活動も素晴らしいのに、家政科学科の倍率が伸びない。人が集まらないのは残念だ。家政科学科の名称の変更を検討してはどうか。イメージアップした名称にしてもよいのでは。また、伝統の紫根染を「企業化」できないだろうか。市を動かして、商品化するのはどうか。生徒に染色の技術があるのもったいない。浄法寺の漆のように特産化を検討してみてもどうか。そうすれば、将来の仕事と結びつく活動ができ、志願者も増える。

C 氏

- 授業見学の際に、教室内の環境が整っていると感じた。そんなに寒くないし、換気を上手に行っている。

D 氏

- 自分の娘の頃のことを言いますと、「汽車通学がしたい」「ソフトボールがしたい」等の理由を挙げ、盛岡の高校に行く生徒がいた。平高が魅力ある学校をめざし、志願者増になればいいと思う。平高の雰囲気がよくっている。

(2) コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設立に関する説明を受けて

A 氏

○ 西根中学校では、令和2年度から導入している。評議員会から発展させた。最大の応援団を得たということだ。コロナ禍で、思うような活動はできなかったが、互いに包み隠さずざっくばらんに話し合えるのがいい。不登校生徒に関する情報も共有し協力し合った。職場体験実施の際の意思疎通もスムーズにいった。今後も試行錯誤しながらより良い活動をめざしたい。

B 氏

○ 大更小学校の運営協議会委員をつとめている。委員の仕事は、「学校の環境整備」が重要である。子供を守るための登下校の見守りや危険防止に注意を払いたい。盛岡市立仁王小学校の欅の木が倒れたニュースを知り、大更小の欅の倒木も心配になった。市当局と予算折衝を行った結果、3月補正予算がつき、無事に危険であった欅の木を切ることができた。このように、スピード感が求められる事態に対応するのが委員の役割だろう。身近なことに対する協力が求められている。

C 氏

○ 学校運営協議会の活動ではないが、類似した活動として、所属している西根ライオンズクラブは、地区をこえた集まりである、「青少年健全育成事業」に取り組んでいる。また、松尾に設立された新保育園に軽トラックを寄贈する活動も行った。

(3) 最後に

C 氏

○ コロナ禍の中で、在宅勤務時にZoomは使えるのか使えないのか、準備しておいた方がいい。緊急の事態に対してもチャレンジしてほしい。製造関連の会社は社員が会社に来なければ仕事にならない。その際は、休憩時間を変更して対応している。環境に慣れることが大切である。

B 氏

○ 高校入試の志願状況について、評価している。日頃の活動の成果だと思う。平高のさらなる魅力化に期待したい。中学生が行きたい高校をめざしてほしい。期待大である。家政科学科においても、集まらないのはなぜかを分析し対策を検討してほしい。

A 氏

○ 1年間、平館高校をみて、情報発信をがんばっていると思った。学校案内やポスターの作成、広報活動等。市内唯一の高校としてよく努力しておられる。

6 校長から

せっかくコミュニティ・スクールに移行するので、評議員のみなさまのご意見を参考に、よりよいものにしていきたい。また、家政科学科を盛り上げていきたい。